

新大 院学長

CROSTALK

Index

- p01 新学長×大学院生クロストーク
- p06 大学院生フォーカス
- p08 心理臨床相談室 | 特命助教 太田 美里
- p09 NEWS&TOPICS | 学術研究活動表彰式&博士フェスティバル
- p10 研究者紹介 | 法学部准教授 天田 悠
- p12 NEWS&TOPICS | 大学祭&ホームカミングデー

- p14 Message from OB | 株式会社 学生窓口 代表取締役 瀬戸 雅也
- p16 瀬戸内海分校プロジェクト | くらしこうみ
- p18 極め付け四国鉄旅第2弾 | さぬきの文化探訪「普通寺市」
- p20 地域マネジメント研究科 | 研究科長 中村 正伸
- p22 Next Innovation | 創造工学部長 末永 慶寛
- p24 Campus Treasure | 「Blue Birth」 杉山 利恵
- p26 NEWS&TOPICS | 大学ニュース



みや せいご
宮 成吾
農学研究科 1年

つのもり まい
角森 愛美
地域マネジメント研究科 2年

うえだ なつお
上田 夏生
香川大学長

すりた まさき
摺田 真幸
創発科学研究科 2年

くぼ みどり
久保 みどり
創発科学研究科 2年

大学院での学びがもたらすものとは。
上田学長と大学生、社会人、起業家から
大学院生になった4人のクロストーク。

大学院で学ぶ という選択。

探究心を満たしたい
強い思いを胸に大学院へ

— 皆さんが大学院へ進学することを
決めた理由についてお聞かせ下さい。

摺田 大学院に行くつもりはなく、就活を考えていたのですが、3、4年生時代はコロナ禍で授業がオンラインになることが多くなりました。教授と実際に会って話す機会も難しい状況の中で、学びがとても物足りなく感じました。何が身に付いたという実感がなく、この状態で就職してどうなるんだろうと漠然とした不安を覚えたことがきっかけでした。コロナ禍でマスクをつけた状態で音声がどのように変化するかをテーマに研究していましたが、人を集めてデータを取ることも難しく、大学院で研究を続けながら学びたいと思い進学を決めました。

久保 20年前、社会人2年目の頃に東京で大学院を受けたのですが、転職も重なり結局行けなかった過去がありました。私は子ども向け教材を手がけているのですが、香川大の教授に監修していただきました。その教授から創発科学研究科ができると聞いて「大学院に行きたかったんですよ」と話したら「受けられないじゃない」と。「下の子が大きくなったら受けます」と話す「多分大きくなっても受けないよ、今しかないよ」

新大 院学長



といわれ「ああ、私は学びたいことがあったんだ」と気がつきました。

角森 銀行に入行して約10年経った頃に、同じ組織の中でのいと、無意識のうちに組織の考え方が染みついて新しい考え方がなかなかできなくなっているのではと考えはじめたことがきっかけでした。銀行自体も融資だけでなくコンサルティング強化に取り組んでおり、企業の経営者様に対して適切なコンサルティングができるようになりたいと思っていた頃、地域マネジメント研究科の募集があり応募しました。

宮 私は学部時代の研究をより発展させたかったという探究心からです。また、将来農家の人たちのために役立つ研究職が技術職に就きたいという希望も、大学院進学への決め手でした。

興味のある分野をより極めるための学び

— これまでにどのような分野を学んでいますか。

摺田 私たちが第1期生ということもあり、まず自分の興味があることをやってみよう。メディア媒体の放送技術やマイク、音声に興味があり、コロナ禍でマスクをつけている中で、マスクが音声にどのような影響を与えているのかに興味を持ち、研究していました。創発科学

課題に取り組むデザインマネジメントの授業も非常に興味深かったです。グループディスカッションで、様々なバックグラウンドを持つ20代から60代までの幅広い年齢層の方から多様なご意見を聞いたことも大きな学びです。

宮 幼少期から野菜が大好きで農学部に進学しました。学部時は選択的に植物関連の講義を受講し、植物の生態生理などを学びました。研究ではAIを使ってイチゴ農家さんの作業を軽減するためのテーマに取り組みしました。当時はAI分野のバックグラウンドがなかったため、創造工学部の友人が薦めてくれた書籍や論文で勉強しながら研究を進めました。現在は研究に打ち込みつつ、後輩への指導や投稿論文の作成を通して、意見を正確に分かりやすく伝えることを意識して過ごしています。

上田 皆さんそれぞれまず研究をしたという姿勢が素晴らしいですね。誰かに命令されてやるのではなく、自分がやりたいことがはっきりしていて、それに向かって進んでいるということが大変よく伝わってきました。大学院の役割は2つあって、ひとつは学部で物足りなかった部分をより深め進化させること。もうひとつは仕事をする中で新たな課題、学びの必要を感じた社会人さらに学んで頂くとという大学院の使命が余すところなく伝わってきました。

研究科では工学や教育学の垣根を越えて学べるので、発声方法について学んでみてはとアドバイスしてもらい、エクスペリエンスアート&デザインというユニットで芸術(ボーカル)という選択科目も取っています。

久保 子どもの頃から文字や数字に色が付いて見えていて、高校生の時、それが「共感覚」だと知りました。大学では共感覚に詳しい先生には巡り会えませんでした。東日本大震災をきっかけに起業し親子教室をはじめ、教材の監修を通じて香川大の先生と交流ができ、大学院で学んで研究したいと考えようになりました。現在は子どもの運動や学習効率の上がる研究をしています。大学院で学んだことで教材も「主婦が作ったものじゃなくなったね」といわれます(笑)

角森 地域マネジメント研究科では、理論と実務の双方向で学ぶことができます。企業が抱える問題解決のソリューションを提供するのが銀行の使命ですので、「地マネ」で学んだことを実践で活かしていきたいと思っています。授業では、経営戦略、マーケティング、統計、組織行動、地域マネジメント論などを履修しました。毎週オムニバスで行政や民間企業等より多彩な講師の方が登壇される授業もありました。左脳と右脳を使って普段の思考パターンを変えて

大学院でしか学べない貴重な経験

— 大学院への進学を悩んでいる方へのメッセージを。

摺田 僕も迷っていた経験があるので、就活も経験した上で進学することが意外と大事かなと。私自身は大学院に入ってから就活の幅がすごく増えました。

久保 論文を読んで自分の知識に繋がるといのは大学院で学んだことですね。母親という立場では子どもと一緒に勉強できるというのもいいのかなと思っています。

上田 より多くの社会人に大学院で学んでもらえるよう、仕事と両立できるような仕組みも考えています。オンライン授業然り、オンデマンドを活用すれば都合の良い時間に集中して学ぶことが出来ます。

就活については創造工学部や農学部では修士課程まで進む人が多数います。6年間学んだ知識や技術を企業は歓迎してくれる。一方文系については今後日本の社会全体が変わっていく必要があると感じます。大学の使命として社会のリーダーを育成するための高等教育があります。今後は社会のあらゆる分野で多くの方が大学院で学んだ経験を有することが日本にとって望まし



大 学 院 新 学 長

CROSBTALK

社会のあらゆる分野で、
活躍できる専門知識を持った
リーダーの育成が大学院の使命

いすね。
角森 社会人にとっては会社のバックアップや職場の方達の理解と協力があって学べるので環境づくりも大切ですね。

専門性の高いスペシャリストの育成を目指す

— 4月に創発科学研究科の博士後期課程が新設されますが。

上田 修士課程を修了した方がさらに研究できる課程です。その道を究める専門性の高いスペシャリストを育成することが重要です。修士課程にとっても博士後期課程の先輩がいる屋根瓦式は層が厚くなりよい影響があると思います。

— 大学院に望むことはありますか？

宮 研究科の垣根を越えて他分野の院生のプレゼンや研究発表を聞く講義があれば、自分の研究に取り入れられる要素が見つかるかもしれませんね。

摺田 別々のキャンパスにいる人たちがどんな研究をしているのか知る機会が欲しいですね。

上田 学内でミニ学会とか個別にホームページにアップして見られるようにしても面白いですね。興味がある研究をしている人にアポもとれるような。

角森 大学院生と地元企業による知識と情報の交流の場を設け、お互いが高め合い、成長できれば良いと思います。
久保 社会人から院生になった場合、博士後期課程に進むための詳しい情報提供を希望したい。

上田 貴重な意見や提言をありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。



大学院進学のかっけは様々ですが、学びたいという強い気持ちは4人共通。クロストークでは学術的な交流の重要性についての意見交換もあり、他分野の研究発表を聞く場を望む声があがりました。上田学長も院生たちの発言に興味深く受け止めていました。大学院での高等教育で育成した専門知識を持つ人材が、広く自治体や企業、教育現場などでリーダーになることが社会にとって望ましく、地域の活性化に繋がることの重要性を感じた機会でした。



香川大学長
うまだ なつお
上田 夏生
大阪府大阪市出身



創発科学研究科 2年
すいた まさき
摺田 真幸
富山県滑川市出身



創発科学研究科 2年
くぼ みどり
久保 みどり
福岡県北九州市出身



地域マネジメント研究科 2年
つのもり えみ
角森 愛美
香川県観音寺市出身



農学研究科 1年
みやせいご
宮 成吾
広島県福山市出身

2023年10月新学長就任。香川大学医学部で22年間、生化学の教育研究に従事。医学部長や副理事等として大学の管理運営にも携わってきた。

中学生の頃から放送委員会や放送部に所属し、音声やメディア関係について深く学びたいと考え大学院へ進学。大手放送局に内定。

一つの感覚が他の感覚と結びつく「共感覚」という自らの体験を活かし、異なる感覚が相互に影響しあう「多感覚」も活用した教材研究に取り組む。

百十四銀行勤務。主な業務は融資審査・船舶融資審査。大学院では瀬戸内海事クラスター持続的発展に関するプロジェクトを研究中。

野菜への関心から農学部、大学院へ進学。AIで農業の課題解決を図る研究に取り組む。旬の野菜を複数品種で食べ比べる趣味を持つ。

